



## 自分は楽しいかもしれないけど…

テレビやネットのニュースで、富士山の入山が禁止期間であるにもかかわらず、立ち入り禁止の看板を無視して入っていく人たちの映像を見ました。

富士山が入山禁止期間を設けているのは、遭難防止が大きな理由だそうです。ところが、「自分たちは大丈夫だから」「せっかくきたから」という理由で富士山に登り、挙句遭難して、救助を求める人も少なくないそうです。

「危ないから入ってはいけない」というルールを、自分たちの楽しみのために無視し、遭難したら助けとほしいとは、なんと身勝手に、周りへの迷惑を考えていないのだろうと、憤りさえ覚えます。

他にもバイクや自動車の大きな音を立てて走らせる、飲食店で食材を粗末にする、ゴミを平気で散らかすなど「自分は楽しいと思ってやっていることかもしれないが、周りにどれだけ不快な思いや迷惑をかけているのか自覚していない」ということを目にします。

子どもたちも同様のことは、度々あります。しかし、それは未熟さからくることが多く、故意というケースは少ないかもしれません。しかし、他者に迷惑をかけることや不快な思いをさせることは、自分が楽しくても厳に慎むことを大人は教える必要があります。

余談かもしれませんが、各都道府県では「迷惑防止条例」が制定され、痴漢や盗撮、つきまといや嫌がらせ、粗暴行為などは逮捕や刑事処分の対象となっています。